

3日 木曜

ルカ

18:9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。

18:10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとは取税人であった。

18:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。』

18:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』

18:14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

18:15 イエスにさわっていただくとして、人々がその幼子たちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちがそれを見てしかった。

18:16 しかしイエスは、幼子たちを呼び寄せ、こう言われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

18:17 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」



ん。」

神様の目から見て、誰が義人であるかは明らかです。自分の行いの立派さを主張することは、どんなときも愚かであると言わざるを得ないでしょう。私たちは気をつけましょう…というよりも、価値観を根本的に変える必要があるのかもしれない。

「子どものように…」というのも謙遜に関係しています。素直に自分の弱いところ、未熟なところを認める必要があります。ですから教会とは、弱さや足りなさや失敗を素直に認める人々の集まりであり、そのような人が「義と認められて家に帰る」ようであればならないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

